

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成22年4月分)

ご協力ありがとうございました。平成22年4月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 168社 回答 150社 回答率 89.3%

| 調査項目 | 前 月 比 | | | | | 計 | 前 年 同 月 比 | | | | | 計 |
|------------------|--|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|
| | 10%以上 増加・上 昇・好況 | やや 増加・上 昇・好況 | 横這い ・平常 | やや 減少・下 降・不況 | 10%以上 減少・下 降・不況 | | 10%以上 増加・上 昇・好況 | やや 増加・上 昇・好況 | 横這い ・平常 | やや 減少・下 降・不況 | 10%以上 減少・下 降・不況 | |
| 売上数量 | 13社 8.8% (22.3) | 18社 12.2% (24.8) | 58社 39.2% (34.4) | 35社 23.6% (9.6) | 24社 16.2% (8.9) | 148社 | 48社 33.3% (29.7) | 17社 11.8% (16.8) | 37社 25.7% (20.6) | 14社 9.7% (12.9) | 28社 19.4% (20.0) | 144社 |
| 売上高 | 12社 8.1% (24.1) | 23社 15.4% (24.7) | 52社 34.9% (31.0) | 39社 26.2% (12.0) | 23社 15.4% (8.2) | 149社 | 39社 26.9% (22.4) | 18社 12.4% (16.0) | 39社 26.9% (18.6) | 22社 15.2% (17.3) | 27社 18.6% (25.6) | 145社 |
| 在庫数量 | 4社 2.8% (6.6) | 24社 17.0% (21.2) | 71社 50.4% (44.4) | 37社 26.2% (23.8) | 5社 3.5% (4.0) | 141社 | 10社 7.2% (4.0) | 17社 12.3% (15.4) | 37社 26.8% (26.8) | 28社 20.3% (23.5) | 46社 33.3% (30.2) | 138社 |
| 販売単価 | 5社 3.5% (2.6) | 52社 36.1% (26.1) | 70社 48.6% (60.8) | 13社 9.0% (9.2) | 4社 2.8% (1.3) | 144社 | 12社 8.6% (6.6) | 31社 22.1% (10.6) | 31社 22.1% (23.8) | 28社 20.0% (22.5) | 38社 27.1% (36.4) | 140社 |
| 収益状況 (粗利) | 15社 10.1% (12.7) | 20社 13.5% (22.3) | 69社 46.6% (43.3) | 28社 18.9% (12.1) | 16社 10.8% (9.6) | 148社 | 39社 26.9% (21.3) | 26社 17.9% (14.2) | 32社 22.1% (26.5) | 22社 15.2% (13.5) | 26社 17.9% (24.5) | 145社 |
| 稼働率 (生産・加工設備) | 2社 1.7% (8.6) | 18社 15.1% (18.8) | 58社 48.7% (49.2) | 28社 23.5% (12.5) | 13社 10.9% (10.9) | 119社 | 29社 25.0% (20.6) | 15社 12.9% (12.7) | 41社 35.3% (38.1) | 13社 11.2% (13.5) | 18社 15.5% (15.1) | 116社 |
| 入出庫の トラック台数 | 3社 2.1% (12.0) | 15社 10.6% (20.0) | 74社 52.1% (45.3) | 37社 26.1% (15.3) | 13社 9.2% (7.3) | 142社 | 24社 17.3% (15.6) | 24社 17.3% (18.4) | 52社 37.4% (35.4) | 17社 12.2% (14.3) | 21社 15.1% (16.3) | 139社 |
| 現在の景況感 | 1社 0.7% (0.6) | 9社 6.1% (14.2) | 59社 40.1% (34.8) | 24社 16.3% (13.5) | 54社 36.7% (36.8) | 147社 | 9社 6.4% (4.8) | 30社 21.4% (19.7) | 35社 25.0% (23.1) | 23社 16.4% (17.0) | 43社 30.7% (35.4) | 140社 |
| 3ヶ月後の 景況予測 | 1社 0.7% (0.6) | 7社 4.8% (7.8) | 63社 42.9% (35.7) | 26社 17.7% (20.1) | 50社 34.0% (35.7) | 147社 | | | | | | |
| 特記事項 | 今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします | | | | | | | | | | | |

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査（４月） 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 2、3月の反動も予想外に少なく、前年比で見れば想定外の数量であった。5月は稼働日数減で、厳しい状況下になると思われる。
- ② 確実に仕入れ値はジリジリ上がってきているが、相変わらずユーザーには仕事が無い。段階を踏んで売値を上げてはいるが、転嫁仕切れない。この先も厳しい状況は続くだろう。
- ③ 新年度になったが、前月以上に荷動きは鈍く、とくに建築・建材用薄板は更に低調傾向を強めている感が強い。外装内装材のカラー鋼板も、6月には2万円を目処に切り上がった価格になるだろうが、薄物と0.5t以上の厚物とのエクストラ以上の価格差が表面化しそうだ。高炉各社の輸出比率が50%前後まで上がってくれば、今年は今までと違った国内流通整備が加速しそうだ。
- ④ 短期の思惑買いも一巡し、4月は低位な商いに終始した。地方特約店やユーザーの購入価格との乖離が進み、先高を見込んだ高炉のアナウンスや新聞報道だけでは、荷動きに限界がある。
- ⑤ 振り返ってみると、少量ながら3月に仮需があった結果となり、4月に入り引合いが弱くなった。在庫数量はロールupが遅れており、契約残あり、現物なしの状況である。
- ⑥ 材料先高感からの前倒し手配の一服感から、受注は前月比減少。一方、材料メーカーの輸出偏重傾向により、入手困難鋼種が増加。さらに、材料価格の上げ幅は大きく、国内需要回復には時間が掛かるものの、自助努力で吸収しきれる限度を超え、製品価格に転嫁せざるを得ない。
- ⑦ 需給がタイトな中、メーカーの値上げ表明で、店売り市況は急伸している。一方、大手紐付ユーザーとの価格交渉に具体的進展が見られないことで、上げ相場の市況にも一服感が見られる。今後、更なる価格転嫁には、紐付き価格の早い決着が待たれる。

中板

- ① 4月の販売量は前月比減少するも、荷動きは仮需も含まれ堅調に推移したとの認識だ。実需低迷は変わらず、市況は段階的に上昇するも、中旬以降、荷動きは落ち着いた感があり、踊り場状況となっている。在庫はタイト感があり、歯抜けも多いのが現況だ。今後、高値のコイルが入荷するため、採算確保には再度の値上げが必要だ。また、高炉メーカーの原料高による再値上げが聞こえてきており、継続して段階的に値上げが必須となっている。需要回復が期待できない中ではあるが、流通にとって5、6月は正念場と考えている。

厚板

- ① 当月は橋梁の山積が少ない中、首都圏の再開発関連の鉄骨の加工が始まった。前月比では若干増加したものの、全体としては低水準であり、稼働率も6割前後である。来月以降、当該鉄骨がしばらく続き漸増していく傾向にはあるが、橋梁材が本格的に動意するまで、基調は大きく変わらない。一方、輸出を中心とした厚板の需要は堅調であり、供給はかなりタイトになりつつある。また、価格も原料高により大幅に値上がりする状況であるが、建築を中心とした内需は相変わらず低調であり、実需の裏付けがない中、市況が上向かない環境下では、実態と懸け離れている感がある。

一般用鋼

- ① 需給のバランスが微妙に崩れ始めているような気がする。相場の一部は無い物に対しての引合いは増加し、それが続かない。需要の無いこのようなときによく起こる現象だと思う。2年前の資源インフレと昨年、需給のバランスが崩れるときが何時なのか？不安の毎日だ。願わくは、現状の相場維持のため、メーカーから供給について大幅な削減を望む。もちろん、我々も今以上の努力を重ねなければならないと思っている。
- ② 前月比、販売量は減少するも、売上高は増加、粗利は減と変則的結果となった。月前半は、前月の受注残消化もあり、比較的好調なるも、後半は荷動き皆無と言ってよい状態だった。年初からの新価格体系作りに翻弄された第一ステージは終わったが、連休明けからの第二ステージ入りに際し、必要なキーワードは脚下照顧であろう。

鋼管

- ① 3月も4月も仮需はあった。今後も材料不足でロールも遅れ気味のため、需給が逼迫することがあるかもしれないが、一時的なものになるだろう。

構造用鋼

- ① 店売りを中心とした動きは、4月に入り建産機関連等の在庫調整がほぼ完了したことから、引合いも増加してきた。メーカーの値上げ実施に伴い、多少の先行買いの動きもあるが、需給は先行きの不透明感はあるものの、回復基調となっている。紐付については、自動車関連は引き続き堅調な動きとなっており、また、一般産業機械、建設機械の部品調達関連も徐々に上向いている。

その他

<曲げ加工>

- ① 公共事業の削減で曲げ加工が減少。今後しばらく不況が続くか。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は物件物、紐付とも計画通り。スポットは2月、3月と比較すると30%以上増加。大口物件が継続していることと、紐付材が高位安定していることから、5月も高操業を維持できそうである。各種原料高騰により、塗料等の材料費値上げの気配あり。